



〒102-0093 東京都千代田区平河町2-14-3 青年会議所会館2F
公益社団法人 東京青年会議所 事務局
Tel.03-5276-6161 Fax.03-5276-6160

<https://tokyo-jc.or.jp>

JCI
Junior Chamber International Tokyo
公益社団法人東京青年会議所

ANNUAL REPORT 2019

発行/公益社団法人 東京青年会議所 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-14-3 青年会議所会館2F

全市民参画都市「東京」

未来のための 市民の本分

ANNUAL REPORT 2019

公益社団法人東京青年会議所

INDEX

理事長あいさつ	04
副理事長・専務理事あいさつ	05
例会報告	06
2019 TOKYO JC AWARD	10
室報告	11
委員会報告	12
日本 JC 諸大会報告	19
JCI 海外渡航報告	21



理事長あいさつ

GREETING 01

2019年度を終えて、多くの方からお支えいただき、この冊子に事業の報告と成果を掲載できることは心から感謝の念しかありません。賛同をいただき、運動にご協力いただいた全ての皆様に改めて御礼を申し上げます。

東京23区の青年経済人が集う我々の団体が設立70周年を迎えた2019年度は、メンバーが能動的に様々なジャンルの運動を行った年でもありました。私は、年初、東京のあるべき姿を「全市民参画都市」と掲げ、そこで住み暮らす市民には様々な参画方法が存在し、それを果たしていく旗振りを行おうとスローガンにて打ち出しました。実際に課題解決のための運動が展開され、その成果は各担当や委員会の報告に任せることとしますが、ここではあらためて、念頭に掲げた所信に至った経緯を振り返って行くことから始めてまいりたいと思います。

1949年に設立された東京青年会議所には設立趣意書が存在します。「新日本の再建は我々青年の仕事である。」と始まる一文で、「奉仕・修練・友情」が三信条の礎となりました。後に「明るい豊かな社会の実現」が理念として明確に定まり、今に至ります。その上で、2019年、1年という短い期間で何に向き合うべきなのか。そう考えると、そもそも「社会」とはなんであるかという考えを巡らせたのが始まりです。近年、それぞれの個人が属する社会の枠組みが変わってきており、その要因は情報通信網の発達でした。これらに規制を掛け、社会の枠組みを変えることは到底できません。身近な社会への参画は容易にできるようになってきましたが、一方で大きな枠組みの社会に対しては明らかに他人事であり参画をしていこうという意識



に欠けます。代表的な例としては、世界にてSDGsといったわかりやすい目標が定められるもの、それらを大いに活用できている市民は一部に限られている、という点です。自立という言葉が個人主義や経済的自立に限定されるかのように誤解され、公共の優先順位が自立の後であるということにも、不安を覚えました。これらを解決していくためには何が必要か。それは、個人が社会課題を直視することであり、それを踏まえての行動なのだろうと考えます。一部、自立が個人主義だと誤解される現代で正しい課題抽出のための根本原因への考察が伴わない社会参画は、単なる個の善を主張するだけであり、いたずらな意見の分断を招くのだと考えました。ついては、個は社会を構成する一人であり、社会に属する個ではない。市民の本分という言葉に込めたのは、このような考えから生まれた想いでした。

それぞれの市民が自らの本分を理解し、行動に移していくためには何が必要なのか。それは、理想とする像です。現状の課題に飲み込まれ、思考を停止することは成功にせよ失敗にせよ成果に到達することができません。その時に、明確に目指す社会があれば変わるのではないか。設立70周年を迎える我々にとって、東京の中期的なビジョンは不可欠なものでした。その上で、東京2020大会は大きな分岐点となります。青年会議所としては準備段階からどのように、この機会に携わるべきかと考えていましたが、「万国フェス2019」や「東京JC2020パートナーシップ」によってその方向性を確立できたことは一つの成果でありました。私たちが得意とする世界との友情を大いに活用し、この機会に東京23区内の市民と世界とを結び付ける。そして、レガシーとして多文化共生や国際性



公益社団法人東京青年会議所
第70代理事長

塩澤 正徳

を地域に遺す。この運動の本番は2020年度であります。実施した効果の検証により成果を得たことから迷いなく突き進めるのだと信じています。

いずれの運動においても、本質への志向を重視して運動を展開することを重視してまいりました。多様性を認めることで固定的な価値観からは創出されない、新しいアイデアが生み出され、イノベーションを起こし、新しい時代にふさわしい転換をはかることができる。これらは既存の価値観を乗り越えようとするに足る、言葉だと思います。しかし、ここには重要な事が抜け落ちています。それは、どういう時代、社会にするべきかという議論であり、さらにはその統一されたビジョンです。私たちは変化が待望される現代だからこそ、考える必要があるのではないのでしょうか。1年間、新時代のリーダーとなるために私たちメンバーは忌憚のない意見交換を重ねて来ました。そして、その議論が市民の皆さんにも賛同を得られるよう運動を通して発信することができたのだと思います。

この1年間、青年会議所運動の本質もあらためて見直すきっかけになったのだろうと自負します。私たちは、青年経済人であり、未来に権利と責任を有します。だからこそ、どのように在るべきなのか。1年間で役職が変わり、40歳という期限付で活動をする私たちだからこそできる運動とは、活動とはなんなのか。いつの時代も社会の在り方と自分たちの在り方を考え続けてきている私たちです。ぜひ、私たちの組織へご理解をいただき、ますますのお力添えを賜われますよう、心からお願いを申し上げます。

副理事長・専務理事あいさつ

GREETING 02



70年の歴史から青年が考える未来の理想像を基本方針に掲げ、70周年事業特別委員会では個人の本分を理解し行動することを目的に1月例会を、70周年記念式典では、歴史を紐解き2023年の東京のあるべき姿の方向性を指し示しました。祝賀会では多くの皆様との交流からメンバーの成長に繋がる貴重な機会となりました。東京JC2020特別委員会では、今後も継続する国際交流の仕組みを構築する為、4月例会を実施しました。小池都知事をはじめとする行政関係者、25ヶ国を超える大使館関係者と多くの市民が参加し、8,000名が集う事業となりました。その後も

副理事長
伊澤 英太



「全ての課題の本質に迫る根本的な解決策の実行」の基本方針のもと、様々な政策を立案し、実行して参りました。政治行政政策室では、市民一人ひとりが社会を構成する主体者として関わり、地域や自国の未来を決めていける社会の実現に向けて、将来の有権者が教育の段階から民主主義の本質に触れることができる仕組みを構築することができました。教育政策室では、次世代を担う人材が新時代において必要とされる自主性、創造性、社会性を実際の体験の中で育むことができる仕組みを構築し、企業単体でも策定した教育プログラムが実

副理事長
諸喜田 智



「課題解決に能動的な市民・企業があふれる社会の実現」を基本方針として、共生社会政策室、経済政策室及びブランディング室を担当させていただきました。共生社会政策室では、互助に基づく地域コミュニティの構築を目指して、6月例会及び「ついDAY運動」を実施しました。行政や関係団体に賛同が広がり、「ついDAY運動」は次年度も名称使用事業として継続予定です。経済政策室では、オープンイノベーションによる社会課題の解決を目指して、3月例会及び「Link-de-Changeプロジェクト」を実施

副理事長
塚田 耕太郎



国際政策室とSDGs政策室は「地球市民として勇気ある行動を！」の基本方針に則り、2019年度のJC運動に邁進いたしました。70周年の節目を迎える大事な年にあたり、5つの姉妹JCを擁する我々は、例年と比べて国際的な友情を育む機会が多かった一年となりました。国際政策室ではビジネスという万国共通のテーマを切り口に、「Challenge Up Tokyo」運動の展開と10月例会を開催しました。当室では5回の姉妹JC訪問並びに共同事業を実施しました。お馴染みの東京ブースではE-sports体験で多くの国内外メンバーをおもてなしました。SDGs政策室ではマル

副理事長
下山田 敬介



2019年度は「全市民参画都市「東京」～未来のための市民の本分～」のスローガンのもと運動を展開しました。運営室、総務委員会は4つの地区委員会で行われた理事会をはじめ多くの会議の設営や各種大会での登録の取りまとめなど、メンバーサポートに携わり、年間を通して下支えをしました。渉外委員会は正副理事長が多くの関係者より良い関係を構築する業務を担いました。財務室、財務審査特別委員会は健全な財務執行に尽力し、財務運営委員会は持続可能な財政基盤を構築するため賛助・協賛企

専務理事
野中 彰志

各地区と繋がった大使館や学生団体と継続的に交流し、70周年記念事業、報告会を実施いたしました。事業推進室では例会及び全体事業、地区事業を審査させていただき社会課題抽出からの目的設定、将来のビジョンが明確になっているかを精査させていただきます。ご協力をいただきました全ての方々に感謝と御礼を申し上げます。

施できるまでに至りました。会員拡充室では、個人の交渉力に依存しない均一化された会員拡充手法と、会員の機会と経験の減少を補う新たな研修の仕組みの確立に向けて、組織力を向上して参りました。2019年度の運動にご賛同賜りましたすべての皆様に感謝を申し上げますとともに、今後も変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

しました。事業化が期待できる事業プランも飛び出し、オープンイノベーションの有用性を示しました。ブランディング室では、8月例会「第35回わんぱく相撲全国大会」に加え、初の女子全国大会を開催し、女子にも夢の舞台を提供できました。マスコミの注目を集め、効果的な運動発信とともに、東京JCのブランド向上に寄与しました。1年間大変お世話になり、ありがとうございました。

チステークホルダーパートナーシップ構築をするために、行政のSDGs参画を加速させました。また中小企業のSDGs参画を支援するだけでなく、市民の参画も獲得し、5月例会には多くの一般来場者に参加いただきました。2019年度の国際政策室とSDGs政策室にご賛同賜りました全ての皆様に御礼申し上げます。

業の維持、獲得を行いました。JCI・日本JC連携特別委員会はJCIや日本JCの要職に数多く輩出したメンバーをサポートするとともに、各種大会のPRを積極的に行ってまいりました。専務グループの理事、委員長、副専務の縦横無尽の働きと運営・運動に携わってくれたメンバーが自らの本分と向き合い活躍してくれたことに感謝致します。1年間、本当にありがとうございました。

例会報告

REGULAR MEETING REPORT

1月 70周年、決意を新たに 社会課題の根本的解決へ挑む

70周年を迎え、メンバー全員が決意を新たに社会課題の根本的解決へ挑むために『全市民参画都市「東京」～未来のための市民の本分～』のスローガンのもと、1月例会を開催致しました。当日は、東京商工会議所 副会頭 田中常雅様をはじめ多くのご来賓の方々や、公益社団法人日本青年会議所顧問岡部栄一君をはじめとする国内各地会会員議所の皆様、海外LOMメンバーの皆様、先輩諸兄姉の皆様の前で、塩澤理事長のプレジデンシャルリースの伝達式からの所信表明を行っていただきました。青年会議所として、70周年を1番最初に迎える東京青年会議所です。そして日本をけん引する都市「東京」の一員として、先頭に立ち理想とする未来へ邁進していくことを声高々に宣言をさせていただきました。



2月 「新時代」の子どもたちを 大人はいかに育てるのか

2月17日BASE Q(東京ミッドタウン日比谷)にて「新時代の子育て」をテーマに開催させていただきました。第一部では孫泰蔵氏をお招きし、変化が非常に目まぐるしい時代であること、新時代に必要な人財について、その上で、大人も子どももどのように生きていき、教育に何が大切なのかをお話いただきました。第二部では哲学者中島芭旺氏(12歳)、All東北教育フェスタ代表千葉百華氏(22歳)、ワンファイナンシャル株式会社代表山内泰人氏(18歳)をパネリストとしてCURIO SCHOOL取締役染谷優作氏をモデレーターとしてお迎えし、自身の体験談や理想の教育についてお話いただきました。第三部では参加者に聞いて良かったで終わらず、次への一歩を踏み出してもらうために様々な新時代の教育をブースで体験していただき、次なる一歩としてNEXT STEPとして宣言していただきました。終了後も反響が大きく多くのブログでシェアされる例会となりました。



3月 オープン・イノベーションによって 現代社会の課題を解決する

3月18日、有楽町朝日ホールにて開催。中小企業経営者を対象に、市民の本分として社会課題解決に取り組む必要性を理解することを目的とし、オープン・イノベーションの活用について学びました。第一部では、衆議院議員の平将明氏よりイノベーションの現状や必要性について講演いただき、企業が社会課題に取り組む意義について理解を深めました。第二部では、参加者が自社で実践できるよう、オープン・イノベーションを活用した社会課題解決事業の実践例として、パネルディスカッションを行いました。第三部では、第70代理事長塩澤正徳君と平氏による対談を行い、東京の未来を見据え、中小企業経営者および青年会議所会員として社会課題解決に取り組む意識を育みました。



4月 東京2020大会を契機に、 各区で市民と世界との「協働」を

東京オリンピック・パラリンピック大会を最大限に活かし、2020年、東京23区で国際交流の拠点を市民とともに展開する。その準備として、東京JC・各国・地域団体の「三者」それぞれとの関係作り促進のため、さらには、大会期間中に23区各地で行う事業のモデル提示のため、4月例会「万国フェス2019」を開催しました。駒沢オリンピック公園にて行われた「万国フェス2019」には、24の大使館を含む27カ国が出席し、各国の文化、食事、ファッション、遊びなどが体験できるブースが40以上展開されました。8,000名の市民が来場・参加し、協力いただいた大使館からは「これまでのどのイベントよりも多くの市民にPRできた」との感想がありました。各国・各地域団体との関係を深め、東京JCの2020年の運動への参加を促す効果を得ることができました。



5月 SDGsを共通言語として 一人ひとりが社会を変革する

5月例会SDGsで未来を描こうでは、行政がSDGsに取り組むことのメリットを市民に提起する事を目的に開催いたしました。講演では、日本のSDGs推進をけん引する博報堂、朝日新聞社に登壇いただくだけでなく、SDGs未来都市に選定された神奈川県SDGs担当理事の山口氏に登壇いただき、様々な角度から行政がSDGsを取り入れる事の必要性についての講演がされました。また、朝日新聞社のワークショップを行うなど、参加者にディスカッションする機会を提供する事ができました。具体的なメリットとして1.SDGsを通じた市民とのコミュニケーションが市民参画を拡大させる。2.政策をバックキャストで考え、ステークホルダーを巻き込む、という2つを提示する事ができました。アンケートでも8割以上の方がSDGsを通じて社会問題を発信する事で、参画しやすくなるとの回答を頂きました。



6月 「超高齢社会」の今 私は、あなたは、何ができるだろう

「互助」をテーマとし、「我が事の意識改革を促し、互助に基づく地域コミュニティの構築に地域も関わり、全市民参画を実現すること」を目的とした例会を開催いたしました。第一部ではコミュニティデザイナーの山崎亮氏をお招きし、市民が主体となって地域を活性化させた事例の紹介を通して、互助を浸透させることの重要性が示されました。第二部のパネルトークでは、推進運動として展開してきたDAY運動に対する見解、市民参画を促すために必要なこと、行政が担うべき役割について、各分野の有識者の見解をお聞きし、市民参画実現への重要な示唆を頂きました。本例会後のアンケート結果で、互助を我が事として捉えられたという回答が多数を占めたことから、意識の変容において一定の成果が得られました。



7月 今、政治を語り合うことが 未来の日本を形づくる

難しく、どこか縁遠いイメージのある「政治」。若者の主権者意識の低下が課題となっている今、一人ひとりが主権者であることを自覚し、政治を自分事として見つめなければなりません。本例会では政治のつまらないイメージを払しょくするべくオープンスペースでのトークセッションや各政党代表者を招き、政策理解の場を設けました。また、参議院選挙の争点や各政党の方向性の違いや政策について一覧表にまとめて比較したり、ご来場いただいた方がモバイルでのインターネットを利用し、討論会に参加できるようにしたりと、政治を身近に感じるための企画を複数用意いたしました。



8月 勇気、礼節、感謝の心を胸に 子どもたちの健全育成を目指す

2019年8月4日、8月例会第35回わんぱく相撲全国大会を開催致しました。1977年から始まった同大会も35回目を迎えることができました。今年は例年と異なり墨田区総合体育館での開催となりましたが、例年通り各地の厳しい予選を勝ち抜いてきた110チーム330名のわんぱく力士達が熱い戦いを繰り広げました。本大会のテーマは「勇気・礼節・感謝」～心にもわんぱくピース!!!～。取り組み時に見せる子ども達の「勇気」、相撲を通じた挨拶や礼儀などから感じられる「礼節」、取組終了後に両親や先生、友人たちに見せる「感謝」の心。そして大会終了後にはみんな笑顔でわんぱくピース!!!子ども達は本大会を通じて、わんぱく相撲の三本柱である「勇気・礼節・感謝」をしっかりと感じてくれました。とても素晴らしい大会が開催できましたことを厚く御礼申し上げます。



例会報告

REGULAR MEETING REPORT

9月 創設70周年を節目に 東京の「ビジョン」を明確化する

2019年9月3日(火)、公益社団法人東京青年会議所は70周年を迎えました。不確実で予測困難な時代である今、私たち市民は自身またはコミュニティの行動指針として、明確な目標—ビジョン—を持ち、主体的に行動することが求められます。「よく分からない」「誰かがやってくれるだろう」のように社会の流れにただ身を任せてはなりません。全市民が将来のあるべき姿や、未来像を持って立ち向かうことによるのみ、それぞれの社会が抱える問題が解決に向かいます。今一度東京の目指す姿を理解し、先を見据えたビジョンを持つことの重要性を再認識しました。1,149名の方にご参加いただき、厳かな雰囲気の中、大盛況にて終了いたしました。



10月 多文化共生社会の実現のために 私たちが今、出来ること

10月例会では、一般社団法人日本国際化推進協会(JAPI)の事務局長であり、株式会社With World代表取締役の田村一様もお越しいただきました。外国人材の採用、定着の方法をはじめ、外国人労働者の雇用におけるメリット・デメリット、外国人材を取り巻く日本の環境の問題、そして外国人材の活用による日本社会の展望など、ご自身の経験と調査研究に基づき講演いただきました。一時的なコミュニケーションコストの増加など諸般の課題はありますが、外国人材の雇用は事業拡大のチャンスであり、日本の労働力低下問題に有効な一手です。まずは初めの一歩を踏み出し、異文化理解や、働きやすい環境の整備を行いながら、外国人材の活躍の場を創出していくことが大切だと語っていただきました。



11月 次年度委員長が語る JC活動への熱い思い

2019年11月25日に11月例会を開催しました。「主体的にJC運動に参画するメンバーを増やすこと」を目的に行った共益事業で、ほぼ新入会員だけによる設営でした。次年度の23地区委員会、会務政策系委員会のPRのため各委員長予定者らが登壇し、委員会登録を控えた全メンバーに対して熱のこもったプレゼンテーションを行いました。年間を通じて見ても、大変多くのメンバー、オブザーバーが参加した例会となり、2020年に向けて積極的に参画していく意欲の向上に繋がりました。また本例会をきっかけに、入会を決めたオブザーバーも多く、目的をしっかりと達成できた有意義な会でした。



12月 全市民参画都市「東京」 未来のための市民の本分～理想の先には～

2019年12月7日(土)、ホテル椿山荘グランドホールにて、12月例会クリスマス・卒業式 全市民参画都市「東京」未来のための市民の本分～理想の先には～が開催されました。12月例会では、第1部「表彰式」では、動画により1年間のJC運動を振り返り、その功績が表彰されました。そして、第2部「卒業式」では、これまで共に運動をしてきた卒業生を盛大に送り出し、現役メンバーにとっては次年度への意欲を向上させる場となりました。第3部「パーティー」では、懐かしの軟式グローブ(三代目パークマンサーさん)、hitomiさんをゲストにお招きし、圧倒的なライブパフォーマンスにより、盛大に会を盛り上げていただきました。参加された家族のみならず、1年間、我々の活動を支えてくれたことへの感謝を伝えられたのではないかと思います。



わんぱく相撲

大会史上初の大きな挑戦 女子全国大会が ついに実施

「わんぱく相撲全国大会には何故女子が出られないのか」「何故女子の部を開催しないのか」長年に渡り議論されてきたこの問題にいよいよ終止符が打たれました。2019年8月25日、わんぱく相撲全国大会の歴史初めて、女子の全国大会を葛飾の地で開催しました。女子全国大会では多文化共生を強く打ち出し、柴又帝釈天と奥戸総合スポーツセンターエイトホールの2会場での開催の形を取りました。初の女子全国大会で不慣れた要素が多分にある中、一般社団法人葛飾区観光協会様を始めとする運営スタッフの皆様のご協力で同大会を大成功させることができました。初の大会にも関わらずわんぱく女子達の取組は男子に負けず劣らずの熱いものであり、わんぱく女子達は0から1への挑戦を経て、更に大きく羽ばたいていくことでしょう。長期にわたるご尽力に改めて感謝申し上げます。



70周年記念事業

東京JC2020 パートナーシップ

2020年オリパラ時に、23区それぞれで、国×地域団体で国際交流の拠点を展開。そのための関係構築、そして実際に2020年へのテスト企画として、「東京JC2020パートナーハウス」事業を実施しました。各地区委員会協力のもと、人形町商店街とブータン(中央区)、中板橋商店街とポーランド(板橋区)、梅屋敷商店街とモーリシャス(大田区)の組合せで開催された企画では、各国、地域団体の協力、参画のもと行われ、人形町・梅屋敷では、「2020年も一緒に事業を行いたい」と地域団体・参加国の双方が希望しました。また、同時に行った「大学生地域プログラム」では、国×地域団体で行う事業の企画・アイデアを、様々な大学の学生たちがチームを組み、関係団体のヒアリングなどを行いながら考えました。その中間成果発表(11/28@東京国際フォーラム)には、4月例会等で関係をもった様々な国の大使や外交官、地域団体関係者も多数参加し、終了後、複数の国、地域団体から、これらの大学生と2020年に向けて事業を行いたいとの声が出されました。





最優秀東京JC賞
政治行政政策委員会

優秀東京JC賞

- [地区委員会部門] 葛飾区委員会
- [政策系委員会部門] 政治行政政策委員会
- [会務系委員会部門] 総務委員会
- [政策系室部門] 政治行政政策室
- [会務系室部門] 運営室

優秀事業賞

- [例会・全体事業部門] 東京JC2020特別委員会
4月例会万国フェス2019
- [推進事業賞] 政治行政政策委員会
政治行政政策推進運動「シズンシップ」のすすめ～模擬請願で学ぶ社会参画～
- [地区事業賞] 葛飾区委員会
「かつしかの未来へつなぐ」～職業体験から学ぶ事業承継～

優秀会員拡大賞

- 拡大率部門 目黒区委員会
- 拡大数部門 世田谷区委員会

優秀活動賞

- 望月 良孝 (葛飾区委員会)
- 北澤 龍一 (足立区委員会)
- 澤田 大作 (70周年事業特別委員会)
- 渡邊 健太郎 (東京JC2020特別委員会)
- 井川 望 (JC運動発信委員会)
- 早川 博典 (わんぱく相撲委員会)
- 佐竹 洋子 (港区委員会)
- 永野 達也 (総務委員会)
- 河野 智昭 (政治行政政策委員会)
- 高原 彬 (大田区委員会)
- 西村 寛幸 (大田区委員会)
- 高木 隆太 (品川区委員会)
- 矢後 真由美 (品川区委員会)
- 柴田 佳佑 (豊島区委員会)
- 小嶋 和樹 (墨田区委員会)
- 吉田 桂公 (経済政策委員会)

- 大石 怜史 (台東区委員会)
- 中島 英治 (台東区委員会)
- 堀内 慎祐 (会員拡大委員会)
- 村田 征都 (財務審査特別委員会)
- 瀧澤 亮 (SDGs政策委員会)
- 朝倉 舞 (教育政策委員会)
- 宮崎 辰也 (世田谷区委員会)
- 濱田 裕章 (千代田区委員会)
- 鈴木 康彦 (板橋区委員会)
- 中原 淳一 (例会運営委員会)
- 細野 晃生 (北区委員会)
- 阿部 亮介 (杉並区委員会)
- 赤保谷 剛史 (渋谷区)
- 山内 圭輔 (財務運営委員会)
- 山村 尚芳 (新宿区委員会)
- 青見 文博 (新宿区委員会)

優秀新人賞

- 室田 真吾 (足立区委員会)
- 戸塚 利治 (練馬区委員会)
- 追掛 健 (大田区委員会)
- 宮内 麻巳子 (品川区委員会)
- 久田 辰徳 (経済政策委員会)
- 中島 英治 (台東区委員会)
- 青木 渚佑子 (会員拡大委員会)
- 板井 太一朗 (共生社会政策委員会)
- 佐藤 桂介 (北区委員会)
- 門内 淳 (杉並区委員会)
- 青見 文博 (新宿区委員会)

優秀新人アテンダンス賞

- 久田 辰徳 (経済政策委員会)
- 山村 尚芳 (新宿区委員会)
- 中島 英治 (台東区委員会)
- 渡邊 健太郎 (東京JC2020特別委員会)
- 小出 哲玄 (渋谷区委員会)
- 平山 勉 (品川区委員会)

優秀出向者賞

- [日本青年会議所]
原 征 (JCプログラム推進委員会)
高橋 英樹 (日本アカデミー委員会)
瀧井 雅代 (財務運営会議)
柳田 貴裕 (サマーコンファレンス運営特別委員会)
小川 芳裕 (社会ビジョン確立委員会)
- [関東地区協議会]
伊藤 海 (未来教育創出委員会)
- [東京ブロック協議会]
中原 淳一 (ダイバシティー推進委員会)

6大諸会議・例会皆出席賞

- 小林 誠人 (練馬区委員会)
- 佐治 良之輔 (練馬区委員会)
- 下野 貴史 (JC運動発信委員会)
- 早川 博典 (わんぱく相撲委員会)
- 田島 慎太郎 (江東区委員会)
- 前田 慶介 (港区委員会)
- 吉田 英樹 (渉外委員会)
- 梶原 匡弘 (政治行政政策委員会)
- 高梨 拓 (大田区委員会)
- 金村 成秀 (品川区委員会)
- 吉田 具之 (墨田区委員会)
- 北村 麻里衣 (経済政策委員会)
- 小川 芳裕 (SDGs政策委員会)
- 原 泰嘉 (板橋区委員会)
- 大屋 貴幸 (新宿区委員会)

8大会議皆出席賞

- 田島 慎太郎 (江東区委員会)
- 前田 慶介 (港区委員会)
- 珍田 汐花 (総務委員会)
- 梶原 匡弘 (政治行政政策委員会)
- 高梨 拓 (大田区委員会)
- 北村 麻里衣 (経済政策委員会)
- 小川 芳裕 (SDGs政策委員会)
- 宮坂 恵利子 (SDGs政策委員会)
- 大屋 貴幸 (新宿区委員会)

皆出席賞

- 早川 博典 (わんぱく相撲委員会)
- 佐竹 洋子 (港区委員会)

理事長特別賞

- [委員会] 70周年事業特別委員会
板橋区委員会
練馬区委員会
わんぱく相撲委員会
- [個人] 大谷 拓史

功労賞

- 野中 彰志

特別功労賞

- 中原 修二郎

室報告
OFFICE REPORT

事業推進室



理事
外口 真大

全ての事業を自分の事業として捉え、「我が事」とし、推進室・推進会議共に「寄り添う」という意識を持ち、指摘ではなくアドバイスになるよう心がけ知識・経験を伝えることができたのではと考えています。

政治行政政策室

優秀



理事
田中 淑之

政治行政政策室は2019年度の特徴を「連携」とし実践してきました。その特色の通り、政治行政政策委員会では運動に多くの団体を巻き込み、例会・推進運動では政策委員会と地区委員会の垣根を超えた連携を実現しました。

教育政策室



理事
渡邊 学

教育政策室では、「教育」を現在から未来に向けたあらゆる社会課題を解決する根本療法と位置づけ、次世代を担う人材が新時代において必要とされる自主性、創造性、社会性を実体験の中で育む運動を展開しました。

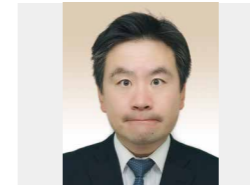
会員拡充室



理事
青木 一平

本年は東京青年会議所の1,000人LOMを目指し、全国の拡大における成功事例を収集し、持続的に会員拡大が行える仕組みを創り、多くの機会を最大限に活かせる本分を果たす人材育成に努めて参りました。

共生社会政策室



理事
吉原 隆平

ニッポン一億総活躍プランから考察される、「支える側」の力が弱まっている現状を改善する為に「支えられる側」と言われる方々にも役割を与え、誇りを持って地域社会に参画出来るように機会の提供を行いました。

経済政策室



理事
佐竹 貴宏

様々な社会問題に継続的に対応する為に、ビジネスチャンスとして捉える考え方を定義し、行政、会社、個人と様々な方々を繋ぎ、ひとつの考え方にまとめ実行する、オープンイノベーションという考え方を例会、推進運動を通して広めてまいりました。

ブランディング室



理事
眞鍋 亜希子

わんぱく相撲の男子全国大会や初の開催となったわんぱく相撲女子全国大会を筆頭に、社会における東京JCのブランディング価値を高める為、2019年に行った全ての運動を対外へ発信する等、積極的な運動展開を行いました。

SDGs政策室



理事
渡邊 学富

国連サミットで採択されたSDGsを、知識及び実績のある東京青年会議所が率先して行動を起こす必要がありました。2030年までに目標を達成できる運動体の基礎基盤を構築し、SDGsに関しての窓口となるよう活動致しました。

国際政策室



理事
須賀 寛文

国際政策室としては、推進運動・例会・70周年に伴う海外LOMとの交流など多岐に渡る運動を行って参りました。また、国際の機会の提供を念頭に、ASPACや世界会議にも多くのメンバーに参加を頂きました。

運営室



優秀

理事
新井 一功

全ての会議体が褒賞対象となるよう基準を改め、公式なお知らせは理事会構成メンバーへ直接配信するなど、円滑かつ充実したJC活動への支援を行いました。また、諸会議にて東京JCナイトを開催し、多くの会員の懇親を促しました。

財務室



理事
宮坂 武宜

公益社団法人として健全な財務執行に尽力致しました。東京青年会議所の財政基盤である、年会費と補助金については運営費として適正かつ効率的な執行を厳格に確認し、活発に事業活動が行える財政構造の監視を行いました。

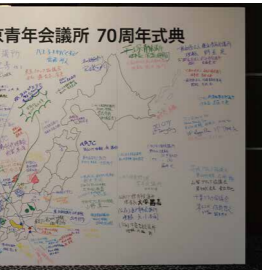
委員会報告 COMMITTEE REPORT

政治行政政策委員会



2019年度は主に3つの事業を実施いたしました。まずは公開討論会ではこれまで目的としていた投票率や主権者意識の向上を見直し、政策本位の候補者選出が出来る討論会を実施しました。本年は9地区で開催し、各地区に1名の担当者を配置しサポートすると共に広報発信を一元化致しました。また、推進運動としては若年層の主権者意識の低下に対し、中学生教育の段階から根本療法として「模擬請願」を実施しました。民主主義の疑似体験する機会を提供することが出来ました。そして、政治を身近に感じ気軽に語り合えることを目的とし、参議院選挙公開討論会を手法として学生団体と共に7月例会を主管致しました。さらに、昨年の準備段階より多くの関係団体や有識者の元へ足を運び共催という形でこれらの事業を共に取り組んでくれたことも成功した要因であると考えております。

70周年事業特別委員会



「新日本の再建は我々青年の仕事である」。1949年9月3日、終戦の傷跡残る東京に、東京青年会議所は設立されました。以来、創始の想いと運動は脈々と受け継がれ、当青年会議所は、本年70周年を迎えました。当委員会は、70周年記念式典を、単なる式典で終わらすのではなく、不確定で予測困難な社会において先を見据えたビジョンを持つことの重要性を示す場とすることを目的として、運営致しました。また併せて、長きにわたる運動の歴史を振り返り、今後の運動の参考として利用されるべく70周年記念誌を発刊致しました。メンバーが、式典や記念誌を通じて当青年会議所が持つ歴史と先人の想いに触れ、より一層活動に邁進されることを切に願います。

JCI・日本JC連携特別委員会



我々は東京JCとJCI・日本JCとして市民を強固につなぐ架け橋として活動してまいりました。東京JCからは、JCIへ川崎副会頭、日本JCへ石川副会頭、関東地区協議会へ中原会長を輩出するなど、総勢132名が意向を経験し国内外で活躍しました。日本JCのロシアンミッションには東京から3名の優秀な学生が、少年少女国連大使の事業には1名の高校生が選ばれ、海外においてSDGsをはじめとする先進事例を学ぶ機会を提供できました。彼らは帰国後すぐに行政や学校に働きかけ、アクティブシチズンとして活躍してくれています。多くの市民と共に社会変革運動を起こせた1年でありました。全市民参画都市東京を全力で創り上げてきた東京JCの仲間たちに感謝です。

東京JC2020特別委員会



東京JCが2020年オリパラ時に、23区それぞれ「外国×地域」とが協働した国際交流の拠点を展開するため、関係構築及び行動計画作りを行いました。駒沢オリンピック公園での4月例会「万国フェス2019」には27の国の大使館等が参加し、8000人近い市民が訪れました。各国との関係が構築されましたが、地域団体を巻き込むことはできませんでした。関係を作った複数の国が台東区、足立区、江東区、大田区の地区・名称使用事業に参加し、荒川区、千代田区では大使公邸を訪問し関係強化がされました。70周年記念事業では、板橋区、中央区、大田区の3地区で「国際交流の拠点」を試験実施し、大学生らが2020年事業を考えるプログラムが実施されました。参加した地域団体や大使館から大学生らと東京JCと「協働」したいとの意向が示されています。

教育政策委員会



2月例会「新時代の子育て」からスタートした本委員会。例会には合計561名の動員に成功し、時代の変化、そこに必要な人材、新時代の教育の方向性を打ち出しました。推進運動では新時代の教育の中でSDGsを切り口にした子どもが社会課題解決を通して非認知能力が育つESD (Education for Sustainable Development) を企業が実施する仕組みを作ることにチャレンジ。結果、4つのプログラムができ、総動員212名、それを基にESDヒーローアカデミー推進ガイドを作成。各関係団体に300部配布しました。実施した企業は継続の実施を表明しており、一つの教育手法を企業に移管することができました。所信で掲げていた「未来の子どもたちのために新しい時代を創る」という一歩が踏み出せた1年でした。

共生社会政策委員会



高齢人口が急速に進み、医療や福祉の対応が求められる中、支え手受け手に分かれるのではなく、誰もが役割を持ち活躍する社会を作ることに注力しました。行政に頼った「公助」ではなく、地域住民で助け合う「互助」により実現する社会の入り口として、子どもが出来れば大人も出来るという発想で、子どもが高齢者の買い物をする「ついDAY運動」を実施。また、他人事から我が事への意識改革が最重要事項とし、介護される側を経験する「介護体験」を並行して実施し、活動してきました。渋谷区、世田谷区から始まったついDAY運動は墨田区へと広がり、行政の方からの後援協力なども頂きながら現在も様々な地域に広がりをみせております。

SDGs政策委員会



推進事業ではまだまだSDGsの認知度が高いとは言えない中で、市民・企業・行政に対してSDGsに対する理解と行動を促す事を目的に行いました。市民に対してはSDGsゲームやカードゲーム、クイズを使った推進運動を行い、1500名を超える市民に対してSDGsに触れ合う機会を提供しました。300名を超す市民がSDGsに関する自身のアクションを宣言しました。企業に対しては中小企業のためのSDGs推進マニュアルのバージョンアップと配布を行いました。また、約10社にてセミナーや座談会を行い、SDGsへの取組みの必要性を訴えました。行政に対しては、23区長に対するSDGsへの取組み状況に関するアンケート調査を行い、結果を公表するとともに、2019年度にSDGs未来都市に選定された日野市様と共同でワークショップや市民参画を促す事業を行いました。

墨田区委員会



2019年の墨田区委員会では、課題であったメンバーの拡大において、毎年行われる「わんぱく相撲墨田区大会」、「勝海舟フォーラム」。その他今年度は、地域に必要な政策を実現できる候補者を選択する「墨田区長選挙公開討論会」、政治行政政策室と連携して区の中学校で行った推進事業「主権者教育授業」。地域のNPO団体と学生で運営している「防災えんそく」への協力。これらのさまざまな活動で、経験を積んだメンバーが増え、新入会員の増加について目標を達成することができました。今後も経験を積み重ね、一人ひとり孤立することなく助け合い全員参画委員会を目指して参ります。

経済政策委員会



社会課題を解決するイノベーションが生まれる仕組みをつくることを目的とし、行政と民間とのオープン・イノベーションによって各地区の課題を解決する事業創出ワークショップ「Link de Change! プロジェクト〜オープン・イノベーションで社会が変わる〜」を開催。東京都8区の行政関係者をはじめ、企業、土業、学生など、多種多様な参加者でチームを組み、グループワークを行いました。2ヶ月後、新規事業のアイデアや計画についてグループごとに成果発表を行い、7件のビジネスモデルが考案され、3件が実現化に向けて動きました。以上の成果を自治体および関係団体に報告し、行政と民間が協働して社会課題解決を図る効果について提言しました。

国際政策委員会



国際政策委員会では、推進運動にて海外とのビジネスマッチングを通じ、多くの外国人材と交流を持つことで多文化共生への道筋を作りました。東京青年会議所70周年という節目の年に、多くの海外JCメンバーを東京に招致し、東京青年会議所メンバーに多くの交流の機会を創出することができました。また、10月例会においては、外国人労働者の雇用促進をテーマに、中小企業における外国人労働者雇用の問題点や解決策、具体的な手法の紹介をしました。外国人起業家・外国人労働者を積極的に誘致することで、全市民が参画する東京の礎を構築いたしました。今年度の活動が、多文化共生社会の実現に向けた一歩となるよう引き続き運動を行ってまいります。

大田区委員会



地域コミュニティの弱体化から防災訓練への参加が少なくなった次世代の区民に対し、防災に関する行動を自主的に起こすことを目的として「おおた防災フェス」を開催。親子で気軽に参加でき、講演、体験を通じて楽しみながら防災を学ぶ当事業は、区民の高い関心もあり、500名を超える親子にご参加いただきました。結果、今後の防災行動について意識向上が見られ、総合防災力の強い街づくりに寄与することができました。また、政治行政政策室との連携による公開討論会、3地区で実施された2020プレバートナーハウス事業、各種名称使用事業においても協力団体との連携強化が図れ、一年間を通じ次年度に向けて新たな関係を築く活動ができました。

中野区委員会



2019年度の中野区委員会は会員拡大はもちろん、メンバーの積極性や事業構築能力の向上に努めてまいりました。新年会でローカルビジョンを共有し、中野ランニングフェスタへの協力では中野経済5団体の若手として協力を醸成、政策への参画としては区長へ提言書を提出しており、更には、4月・6月・7月例会の主管委員会への登録により運営手法を積極的に学んでまいりました。

わんぱく相撲中野区大会はもとより、中野二中では「社会人講話」をしており、教育事業にも能動的に参画しております。次世代の先駆者となるべく、次年度もスポーツ事業や国際文化交流に参画予定であり、魅力的なJC活動を邁進してまいります。

千代田区委員会



2019年度は「前進」というスローガンのもと1年間活動してきました。メイン事業として、区内の乳幼児・小学生の保護者を対象に、家庭教育を通じてどのように読書を習慣化していくかを提案する「AIとの共存社会に向けて～未来を創る親子読書～」を開催しました。地域特性を最大限に生かし、家庭・学校・地域を結び付け、子どもの読書啓発運動を行いました。

その他の取り組みとして、中学生を対象とした「模擬選挙」と「職業紹介授業」、小学生を対象とした「千代田区少年少女相撲大会」、区が開催している「防災講演会」に様々な形で関わりました。年間を通して、メンバー全員が、意欲と目的をもって積極的に運動を行うことができました。

荒川区委員会



2019年度は、「やってみよう！」というスローガンのもと、メンバーが様々なことに挑戦を続けた1年間でした。まずは7月に行われた地区事業「あらかわアカデミー&フェスティバル」では、ご参加いただいた区内小学生に、親子のコミュニケーションツールである学習ブックを配布するなど、事業後も区内小学校から大きな反響がありました。また、本年度は「あらかわパーサイドマラソン」が台風の影響で中止となり、名称使用事業は「わんぱく相撲荒川区大会」のみでした。大会会場が工事の関係で例年と異なったため、設営準備は例年以上に大変でしたが、メンバーが一丸となって大会運営を支え、大会は非常に盛り上がるものとなりました。

江戸川区委員会



2019年、江戸川区委員会は地域を巻き込むことを目的に活動を続けてきました。わんぱく相撲江戸川区大会、江戸川区国際フットサル大会に加え、選挙管理委員会と連携した公開討論会を開催しました。地域団体、行政、民間の方々とも交流会を経て事業開催に至っております。東京青年会議所は設立以来、様々な運動を行いながら数多くの政策提言を行い、社会から高い評価を受ける団体へと成長してきました。江戸川区委員会としても東京青年会議所の理念を地域に根差すべく、QC5サイクルを実践し、単発の事業、単なる名称使用事業で終わらせずに「江戸川区を明るい豊かな地域にする」という目標に向けて全ての行動を紐づかせた一年となりました。

世田谷区委員会



「磨く志 輝く人と街～地域から愛される世田谷区委員会へ～」をスローガンに「メンバーの意識向上が地域を作る」という想いで活動してまいりました。また、委員会メンバーは70名を超え例年にも増して委員会活動も活発となり、次年度は理事を2名輩出させていただくこととなりました。地区事業では「地域で育むこころの森～世田谷こころの森プロジェクト～」を開催し、AI時代に必要とされる能力を育むための環境として家庭や地域が未整備である点に着目し、幼児を含めた子どもの教育に焦点を当てて運動を展開しました。

これからも地域とのつながりを大切に、先輩諸兄姉が築いた伝統を守りつつ、未来を見据えた取り組みを継続していきます。

板橋区委員会



2019年は「感謝」をテーマに掲げ、「教師の日」の普及を目指し、教師に感謝を伝える「先生ありがとう」事業を昨年同様実施。賛同頂いた板橋区や都内小中学校にて「教師の日」の催しを開催する事が出来ました。2020年も更なる展開を目指してまいります。2020年は新たな取り組みとして、他団体と協力を図りながら高齢者にターゲットを置いた事業を行ってまいります。また、2019年は「わんぱく相撲」はじめてのおつかいin中板橋商店街「いたばし産業見本市」板橋区長選挙公開討論会「Japan teachers week」と地域の皆さんと連携をとり、他団体との関係性を深め、青年会議所としての認知度を高める活動を行ってまいりました。よりインパクトのある活動を行い、明るい未来の実現に向け2020年は「挑戦」してまいります。

中央区委員会



中央区委員会は「共存共栄」をスローガンに活動して参りました。「中央区長選挙公開討論会」では動画配信を含め、多くの区民にアプローチを行い、初のわんぱく相撲女子全国大会では中央区女子チームが出場致しました。昨年に引き続き「心の手を繋ぎませんか」では実際に障がい者との交流を行い、心のバリアフリー化を推進し、「人形町×ブータン王国」では小学生から国王へ寄せ書きをし、国王に手渡し出来た事は貴重な成果を残す事が出来ました。メンバーに対しても東京JC70周年を通して活動の意義を伝えられたと思います。「共存共栄」共に在り、共に栄える。の言葉通り関わった人達、地域と共に成長出来た一年になったと考えております。

目黒区委員会



「市民の声に呼応する運動」をテーマに掲げ、2018年に目黒で発生した児童虐待死事件を受けた新たな事業を行いました。事業の初年度として、子育て中の父母に児童虐待の原因の周知を行い、児童虐待の発生予防に繋がる意識を醸成することを目的として、父母の自己肯定感を高めることを主題としたワークショップや、虐待の原因と身近な予防策を主題とした講演や子育てへ地域が感謝の気持ちを伝えるブースを催したフェスを開催しました。当日は1000人を超える方にお越しいただき、多くの地域団体とも協力体制を築き、1日目としてふさわしいスタートを切ることができました。今後も地域に根ざした活動を通じ、地域課題の解決に努めて参ります。

台東区委員会



台東区委員会は、わんぱく相撲台東区大会や桜橋わんぱくトライアスロンなどの青少年健全育成事業に始まり、台東区に存在する新旧住民の心の隔りという社会課題を根本的に解決するために「下町から世界へ」という事業を3年かけ、JCメンバーと地域住民と協働でツアー構築や事業運営を行いました。また、地域や仲間という横軸だけでなく、当委員会の草創期を知るメンバーでもある先輩方との縦軸を大事にし、次の世代に引き継ぐためにも設立45周年の会を開催させていただきました。

拡大に関しても新たに10名のメンバーを迎え、5年連続純増を達成しており、現在37名のメンバーと共に次の50年へ向けた力強い一歩を踏み出しております。

文京区委員会



文京区委員会は、本年度、「地域をつなぎ、時代の先導者となる。」をテーマとして1年間の活動に取り組みました。活動内容としては、まず、2017年度より取り組んでいる地区事業「こころのバリアフリー推進プロジェクト」を7月に実施し、共生社会を実現するための施策として「こころのバリアフリーマーク」を作成し、配布しました。また、名称使用事業として、本年43回目を迎えた「わんぱく相撲文京区大会」、教育事業として力を入れている「東京寺子屋in文京」、「イノベーション・リーダー育成事業」を実施しました。各活動を通じて培われた地域社会とのつながりを活かし、引き続き文京区の街造りに取り組んでいきたいと思っております。

北区委員会



本年度は「温故知新」をスローガンとし1年間活動してまいりました。文字通り今までの活動と向き合い、北区の魅力再発信をキーワードに様々な地域団体と連携し、北区という地域の魅力とは何かを考え地域の勉強会を開き、それぞれの課題を話し合いました。過去を振り返ることにより課題の抽出を的確に行い、本事業「北区の魅力再発信」として地域また区外の皆様へ北区の魅力を発信しました。また、名称使用として、北区花火会、飛鳥山新能、子ども食堂ネットワークと連携し様々な地域の課題、魅力とも向き合える年度となりました。次年度にもそれらのことをそれらの良い部分は引き継ぎ、地域の為、「明るい豊かな社会」の実現に向けて行ける北区として活動して参ります。

渋谷区委員会



本年は「存在意義」をテーマに活動してきました。これは外部に向けてJCを、渋谷区委員会を知ってもらうことです。前例のないボウリング場での公開討論会の開催。わんぱく相撲では國學院大学に協力してもらい会場を盛り上げました。新規事業の「MANABUYA」ではビジネスや起業をテーマとし、中学生に学校では教わらない事を学ぶ機会を提供しました。アウトプットではハチ公前で投資家にプレゼン。受験に関わる書類に実績として記載したいとの連絡があり、我々は最高に嬉しい瞬間でした。渋谷区主催の「SIW」では設営したコンテンツが大好評でJCの存在を多くの人に知ってもらいました。データで測ることは難しいですが結果として存在意義を示せました。

豊島区委員会



2019年、豊島区委員会では3本の事業に関与しました。4月には池袋駅東口の「ニコぶくろスタジオ」にて豊島区長選挙公開討論会を開催致しました。23地区で唯一ニコニコ動画の公式チャンネルで生配信を行い大きく発信できた事業となりました。5月にはわんぱく相撲豊島区大会実行委員会を支援し、第42回わんぱく相撲豊島区大会への運営協力を行いました。南池袋小学校にて約1000名の選手・保護者が参加し盛会に終えることができました。8月には雑司ヶ谷大鳥神社にて「地域で育む多世代交流」を開催致しました。近年希薄になりつつある住民同士の繋がりを作ることを目的とし、町会の方々にご協力頂き、子供たちにお祭りを体験してもらいました。

新宿区委員会



2019年の新宿区委員会では「インサイドアウト〜身近な所から広げる成長・発展の和」というスローガンの下、活動をして参りました。8月には「東京JC新宿区委員会地区事業〜共生祭〜」では、「災害対策をきっかけとした地域と外国人コミュニティの持続可能な多文化共生の推進」を目的として開催させていただきましたが、事業後の10月にあった台風19号の折には新宿区内にある各出張所が一時避難所としての機能を果たしました。そこでは外国人の方も一割程度いらっしゃり、外国人が多い新宿区ならではの状況になった際にも、官と民が協力し合って、難を凌いだということも区長訪問をした際の報告で聞くことができ、当委員会の事業が少しでも全市民参画都市東京に寄与できたことを報告させていただきます。

練馬区委員会



地域社会と市民を結び付け、共に助け合いながら同じ地域で生きていく、地域に根差した、更に地域に必要とされる団体である事を本年度の方針に掲げ、活動致しました。新規事業として「Me-病?!発見フェスティバル」を開催させていただきました。未病改善活動で健康寿命を延伸させ、超高齢化社会へ対しての新しいアプローチ、そして健康な高齢者が増え、社会に参画し続けられる礎を作る為の運動となりました。「わんぱく相撲練馬区大会」や、2019年より地域団体に移管した事業「第3回ねりま習い事フェスティバル」へも積極的に運営に携わり、共生社会のつなぎ役としての機能を果たし、そのインパクトを多くの市民に浸透させました。

葛飾区委員会



本年葛飾区委員会は、事業「かつしかの未来へ繋ぐ〜職業体験から学ぶ事業継承〜」をはじめ、名称使用事業1件、勉強会2件を新たに行い、まさに一丸となって2019年度スローガン「変革者であれ〜戮力協心で創る葛飾の地盤構築」を表現してきました。事業では中青戸小学校の4,5,6年生の全生徒を対象に、区内地域産業の職業体験を行い、アンケートからも事業に対する理解と地域産業に対する周知をすることに成功しました。また葛飾初となる商工会、法人会、同友会そしてJCの4団体合同交流会を開催し、団体の垣根を超えた協力体制の構築、またSNSでの発信を頻繁に行ったことで閲覧数も格段に増え動員に繋がる地盤構築を行うことができました。

杉並区委員会



2019年度は、「第43回わんぱく相撲杉並区大会」を開催し、多くのわんぱく力士が熱戦を繰り広げました。そして、3年ぶりに杉並区から全国大会の出場者を輩出することができました。「すぎなみマッチングプロジェクト〜選ばれ住み続けられる街づくり〜」では、区内在住在勤中心の20代30代の若者世代を対象に、区内の魅力をPRすべく街コンを開催しました。新規事業で有料であったにもかかわらず、35名の若者が集結し、婚活専門の講師による仕切りで大いに盛り上がりました。杉並区で若者が出逢い、結婚し、子育てをし、住み続ける。そんな杉並区の魅力を感じた若者が増えることで、若者が地域参画していく仕組みを構築することができました。

足立区委員会



2019年度足立区委員会は様々な事業や活動を行って参りましたが、我々の役割は地域の中でまちとひとに活力を与え存在感を示すことであると1年間を振り返って改めて確信しています。「あだちクエスト2019」は継続事業でしたが参加人数を大幅に拡大し開催しました。本事業を通じ地域と繋がること、足立区の魅力である「地域のコミュニティ力」を顕在化させ多くの参加者に認知させることで、区の魅力を発展させる事業だと確信いたしました。様々な事業を運営し経験したことは喜びや自信を共有する原体験となりました。メンバーがかけがえない関係を深く切磋琢磨することでJCの本質は変わらず連綿と紡いでくれるものと期待しまして活動報告と致します。

港区委員会



「世界化」をスローガンとした2019年の港区委員会は、新規の地区事業として港区アートフェスを開催し、世界中から約1000点の絵を募集しました。絵のテーマは2030年の理想の世界をテーマです。描いた理想の実現に向け達成すべきSDGsの各ゴールを紐づけて展示することで、未来に向けてどのような行動が必要であるかを認識し、また能動的に行動することを促しました。また世界様々な地域の絵を鑑賞することで、SDGsが地球規模の取り組みであるとの認識を促し、国境を越えた相互理解へとつなげました。本事業はオランダのJCIアムステルダム国際コンベンションの協賛事業として実施されており、集めた絵の一部はアムステルダムの会場でも展示されました。

品川区委員会



2019年度は「仕事も遊びもJCも全力で」をスローガンに、何事も全員で行動するというオール品川の精神を先輩達から受け継ぎ、わんぱく相撲品川区大会と事業「第2回世界とつながる」に取り組みしました。各訪問や配布等をメンバー全員が担当した事で、昨年以上に品川区や品川区教育委員会、大使館・領事館を始め、多くの行政や各種団体との繋がりをより深める事ができ、メンバーも一つになる事ができました。会員拡大においては目標の10名を目指し、毎月「品川魅力発信企画」を開催し、多くの方にJCについての情報を発信し、入会数も目標を達成しました。また入会後も委員会に馴染めるように研修を個別で行う事でしっかりとサポートをしています。

会員研修委員会



2019年度の会員研修委員会では、新たな研修制度を導入致しました。研修委員会のオリジナル委員会、他地区の委員会を見学するオブザーブ委員会、例会総務渉外の設営・運営を手伝う例会等運営の3つを経験しないと修了出来ない研修を行いました。従来のGMよりは時間が掛かりますが、GM単月の同期という枠から、2019年入会同期という大きな枠組みで多くのメンバーが積極的に参画してくれました。自発的に同期会も開催してくれ、例年に無い地区を超えての同期の繋がりを構築出来たメンバーが増えました。委員会としては集大成で11月例会を開催し、次年度委員長登壇による共益例会を開催し、大変多くのメンバーが参加してくれる例会を開催出来ました。

江東区委員会



「和っしょい!江東フェスティバル」を委員会のメイン事業として開催致しました。2020年に東京オリンピック・パラリンピック大会を迎え入れる中で、海外の方とのコミュニケーションや地域が掲げる共生社会を目指す為に、「国際」と「文化」を混合させる事で、次世代を担う子供達に「国際人」としての学びや経験を与える事が出来ました。当日は700人を超す参加者数となり、海外団体との連携や東ティモール協会との事業企画ができた事は大使館のない江東区にとって大きな財産となりました。他にも、区内最大級イベントの「わんぱく相撲大会」や「江東区民まつり中央まつり」に参加し、多くの市民にJCの存在を知って頂ける事が出来ました。

会員拡大委員会



全市民参画都市の実現を目指す組織として、高い目標を掲げ東京JC全体が一体となって拡大運動を行いました。①全地区委員会の連携・少人数委員会への協力②ダイバーシティ・女性活躍推進③ブランディング・発信強化の3点を行動指針として実践し続けた結果、本年度も150名以上の新入会員(11月末時点)に東京JCをチャレンジの舞台に選んで頂く事が出来ました。また少人数委員会の成功実績、女性メンバー比率の上昇、情報発信量の増加という点においても一定の成果を残しました。一方で、今後も拡大し続ける組織として、全メンバーへの目的意識の統一、個人レベルでの自立とブランディング、成功手法の水平展開についてはまだまだ発展させる事ができる可能性がありますので、次年度以降の課題として引継ぎをいたしました。今後も高い意識と情熱を持って、拡大という永遠のテーマに取り組んで頂ければと思います。

例会運営委員会



例会は、市民に対し、東京JCの各委員会等が実施するJC運動を認識してもらう重要な機会です。例会運営委員会は、この例会の効果を最大限に活かすべく、より多くの市民に参加していただくことをミッションと考え、内容から演出に至るまで、主管委員会と協働して参りました。内容については、主管委員会が伝えたいメッセージが、的確に参加者に伝わるよう、事前のシナリオ作成や講演内容の具体化に注力しました。また、「内容が如何に良いものであっても、運営がグダグダであれば、伝わるものも伝わらない」をスローガンに、演出についても細部に亘り、拘りをもって行なって参りました。より多くの市民に参加していただける例会を目指して。

わんぱく相撲委員会



2019年のわんぱく相撲委員会では大会史上初となる大きな挑戦を2つ行いました。一つは男子全国大会の会場変更、もう一つは女子全国大会の実施です。わんぱく相撲全国大会は子ども達にとっての夢舞台として大きな役割を担っており、その大きな要素として大相撲の聖地両国国技館での開催がありますが、わんぱく相撲委員会ではこの大きな困難をプラスに捉え、男女ともに異なった状況だからこそできる試みをいくつも行いました。その結果として新たな可能性を見出し、両大会とも大成功を取ることができました。本当に大変な一年となりましたが、我々はONE-WAN TEAMとして一つになることができたと思っております。一年間本当にありがとうございました。

JC運動発信委員会



本年、全メンバー参画発信「東京JC」と題して1年間活動して参りました。東京青年会議所のブランディングを推進するにあたり、対内外へ我々の活動を発信することは非常に重要でした。HPやSNSを有効利用して、正確な情報伝達で賛同者を増やす為に全地区委員会回りなど、スタッフをはじめとするメンバーと共に頑張ってきました。まだまだな部分が残っておりますが、成果として出ている部分もあり非常に満足度のいく1年となりました。例会での撮影などでスタッフが頑張ってくれたおかげで12ヶ月を乗り切ることが出来、良い記録を残すことが出来ました。内外に対して東京青年会議所の必要な場所である運動発信を全う出来たことに感謝致します。

総務委員会



当委員会の主な役割は、理事会の設営、京都会議・サマーコンファレンス・全国大会での東京JCナイトの設営、入会審査の運営、例会等での受付の管理、各委員会の名称使用申請のチェックなど多岐にわたります。東京JCのすべての運動・会議が、円滑に、効率的に行えるよう1年間活動してまいりました。また、東京JCナイトでは、多くの来訪JCの方にお越しいただき、出向者への激励・メンバーの懇親の場として、設営することを心掛けました。1年間運営にご協力いただき、ありがとうございました。

渉外委員会



渉外委員会は、全ての青年会議所や関係団体や各委員会との連携が大切であります。だからこそ、京都会議・ASPAC・サマーコンファレンス・全国大会・世界会議などの各種大会において適切な機会の提供をメンバーに行って参りました。なにより、1番最初に70年を迎える青年会議所として、「やっぱり東京青年会議所は凄いですね。」と言われるように、渉外委員としての行動規範を作りあげ、他のLOMからお手本となるように活動してまいりました。各種大会では、気の抜くことが出来ない状況もあり、そんな厳しさの中にも「明るく」「楽しく」「元氣よく」を忘れず、委員会メンバーと共に切磋琢磨しながら、次の世代に繋ぐことの出来るしっかりと活動が出来ました。

財務運営委員会



賛助企業の維持・獲得により、財務基盤の確立に向けた活動を行ってきました。東京青年会議所は会員からの会費収入と協賛金収入を財源に運営されている公益社団法人であり、協賛金を確実に頂くことが充実した運動構築のために必要不可欠です。本年度は協賛のメリットが賛助企業に伝わるように、例会への積極的な参加やブース設置、毎月の定例会議による進捗管理など、企業の満足度を高める活動を行ってきました。賛助企業とは継続的な関係構築が非常に重要になってきます。本年度の活動を2020年度に繋げ、既存賛助企業の維持継続と共に、新規賛助企業の獲得を東京青年会議所一丸となって働きかけられるよう活動をしてきたいと思っております。

財務審査特別委員会



塩澤理事長のスローガンの下に展開される例会・全体事業・地区事業に対し、適正な予算執行が行われているかを厳正に監督する反面、消費税率の改定等外的要因による予算執行時の柔軟な対応に助言や指導を適時、対応致しました。事業計画書・報告書における肖像権やマイナンバーなどのコンプライアンス書類に対しチェックリストによる事前確認を徹底させ、効果的な審査体制を確立致しました。また、支出について透明性を向上させるために第三者(金融機関)を介した支払を推進し、監査における指摘事項を共有化することにより公益社団法人としての倫理観を確立致しました。

京都会議

2019年1月17日～20日

日本青年会議所の1年のスタートとして、全国各地の会員会議所メンバーが集う京都会議。2019年は「持続可能」をテーマとし、2019年度第68代会頭鎌田長明君のこのままでは社会の持続が困難であるため、よりよい社会を目指してメンバーそれぞれがSDGsの推進やビジネス機会の提供などを通じた環境づくりを行っていくべきであるとの会頭所信を全国のメンバーが共有し、SDGs推進をテーマとしたフォーラムや、各種セミナーが開催されました。



サマーコンファレンス

2019年7月20日～21日

広く日本青年会議所の活動を発信するために、各界を代表する著名な有識者を招き、政治・経済・社会など様々なジャンルのファンクションを開催するサマーコンファレンス。SDGsを中心に、日本青年会議所が取り組んできた事業の成果を、環境問題やeスポーツなどを通して、セミナーやフォーラムという形での発信が行われました。



全国大会

2019年10月10日～13日

台風19号により一部ファンクションに影響が出た中、富山県富山市にて、第68回全国大会が行われました。テーマは「新陳代謝」。京都会議にて提起した課題に対して日本青年会議所の一年間の集大成となる全国大会で運動を検証し共有するとともに、最終年度を迎えたメンバーの卒業式も盛大に行われました。



金沢会議

2019年2月22日～24日

石川県金沢市にて金沢会議が開催されました。金沢会議は、2015年に世界会議が金沢で行われた際に採択された、SDGsを推進する「金沢宣言」により、毎年金沢の地で開催されています。今回の金沢会議では、「はじめよう、あなたからはじめる持続可能な世界」をテーマに、昨年引き続き寛仁親王妃信子殿下の講演をはじめ、「SDGs未来都市創造フォーラム」等のSDGsに関する様々なフォーラムや、「2030SDGsカードゲーム」等の体験イベントを実施しました。



関東地区大会

2019年7月6日

熊谷にて開催されました。関東地区協議会最大の運動の発信の場として、落合陽一氏をはじめとした第一人者を招き、教育、人口減少、SDGs、多様性社会について、各種フォーラムを開催しました。



東京ブロック大会

2019年6月2日

府中にて第48回東京ブロック大会むさし府中大会「TOKYO 未来フェスタわ～未来へ繋ぐ地域の輪～」が行われました。「ワクワクな探検、オドロキ発見、ステキな体験をしたいなら府中のまちへ！」をテーマに、府中駅周辺を人生ゲームにしたイベントや、府中になじみのあるスポーツをテーマにしたフードフェス、仮面女子などが出演するライブイベントなどが行われました。



ASPAC (アジア太平洋エリア会議)

2019年6月17日～20日

本年度のASPAC (Asia Pacific Area Conference) は韓国・済州にて開催されました。本大会にはアジア22か国のNOMから多くのメンバーが参加し、JC運動に関する各種セミナーや、JCIのメンバートレーニングプログラム、APDC (アジア太平洋開発協議会) メンバーを決定する総会や、アワードセレモニーなど、アジア太平洋エリアの仲間たちとの友好関係や協調関係を築き上げるための機会となりました。



APICC (アジア太平洋国際都市会議)

2019年6月16日

ASPACの前日に、韓国・ソウルにて開催されました。APICCはAsia Pacific International Cities Conferenceの略で、アジア各国の首都LOMが集まり、各国の取り組みと今後の展開について発表する会議です。今回は10か国のLOMが参加し、「Quality Education」をテーマに、各国の教育体制と教育に対して取り組んでいるJCの事業に関して発表がありました。APICC前にはビジネスマッチングイベントも開催され、有意義な会議となりました。



世界会議

2019年11月4日～8日

手つかずの自然とデジタル化の最前線が共存するエストニアの首都タリンにて、世界会議が開催されました。JCI会頭を筆頭に、世界各国より多くのデリゲイツが参加する世界会議では、JCI副会頭を決める立会演説会や、2020年度のJCIの行動計画の策定などが行われます。また、開催地エストニアにちなんだデジタルイノベーションに関するイベントや、タリンの企業訪問など、ビジネスに関する交流も盛んにおこなわれました。



オーダースーツの着心地と楽しさを

ひとりでも多くの方に。

メンズ&レディース オーダースーツ

初回
お試し

19,800円⁺税[~]

通常 24,800円⁺税[~]・5,000円OFF!

シングル上下1着 [生地代・加工代・ネーム代] 込み

大きいサイズの割増料金:無料 | お仕立て1ヶ月以内の寸法調整:無料 | ウエストのお直し:ずっと無料

レディースは、同価格でパンツかスカートをお選びいただけます。

どんな体型にもジャストフィット! スポーツ界でも大活躍

社会貢献活動の一環として、プロスポーツチームに公式オーダースーツを提供しています。



全国 53 店舗

※2020年1月時点

北海道1店舗 / 東北5店舗 / 北陸・甲信越2店舗 / 関東28店舗

東海2店舗 / 中国1店舗 / 関西10店舗 / 九州4店舗

お近くのショールームまで、お気軽に。

オーダースーツSADA ネットショップも好評営業中!

ORDER
SUIT SADA

すべてのひとに資産形成を、取引パフォーマンスを第一に。

\ 詳しくはコチラ /

カブコム



MUFG × KDDI

日本有数の総合金融グループ

日本有数の総合通信グループ

<https://kabu.com> | 0120-390-390

携帯電話・PHSからは

03-6688-8888

24時間資料請求受付中(自動音声応答)
オペレーター受付時間: 平日・午前8時~午後5時

【商号: auカブコム証券株式会社】【加入協会: 日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会】
【金融商品取引業者登録番号: 関東財務局長(金商)第61号】【銀行代理業許可番号: 関東財務局長(銀代)第8号】

証券投資は価格の変動等により投資元本を割り込む恐れがあります。お取引の際は、約款・規定集及び契約締結前交付書面等をよくお読みいただき、商品特性やリスク及びお取引ルール等を十分ご理解の上、ご自身のご判断で無理のない資産運用を行ってください。



掲載情報は2020年1月14日現在のものです。